

## ○ 局別審査【教育委員会】(23.10.4)

### 1. 伝統芸能の継承について

(北山議員)

平成24年度から中学校で始まる学習指導要領では、「伝統や文化を尊重し、それらを育んできた、わが国と郷土を愛する態度」が新たに盛り込まれている。そのため、音楽については、わが国の郷土の伝統音楽の良さを味わうことができるよう工夫して教育することとなっている。

これを受けて神戸市教育委員会では、和楽器については箏(こと)を導入しているとのことであるが、日本古来の伝統文化ということであれば、箏だけでなく、三味線、尺八、太鼓などもある。箏では興味がわかなくても、他の楽器はやりたいといった子も出てくるかもしれない。そういったことから考えて、そちらの方面から考えたことはないのか。教育委員会から学校名が全部書かれた資料をもらったが、箏しか入っておらず、他に何も無い。

他都市の状況を見ると、横浜市では全市148校で箏は510、三味線が81、尺八が18、太鼓が227、篠笛が1,201ある。こういったことから、もっとバランスのとれた取り組みをしていただきたいと思うがどうか。

(指導部長)

神戸市では、箏は537面購入し各学校に配布しているが、和楽器の購入は学校ごとで購入できることになっており、現在、三味線207棹、太鼓120張などを確認している。今後、研修を含め各学校の音楽の先生が指導しやすい体制を整えていきたいと考えている。

(北山議員)

私が和楽器の整備を聞いたときに、いただいた資料が箏だけであった。三味線も尺八もひとつも出てきていない。そうであれば、不正確な資料を私に渡したことになる。もう1回あらためて資料をいただきたい。また、学校の先生がそういった和楽器を教えられないというのであれば、教えられる人はいくらでも世の中にいるので、そういった人に来ていただくようお願いするべきであると思う。また、日本民謡という歌に詠まれている内容がどれだけ地域に根ざしたものであるかということを知ってもらうことも非常に大事なことであると思う。

### 2. 平清盛について

(北山議員)

来年の大河ドラマでは、神戸にとって非常にゆかりの深い「平清盛」が放映されることになり、現在、産業振興局が中心となって、ハーバーランドに「ドラマ館」、中央卸売市場跡地に「歴史館」の準備を進めているが、それはあくまで観光産業の発展に資するものとしての立場での取り組みが多い。

平清盛が神戸で果たした役割はたくさんあり、そのことを教育の場で小中高生にどのように教えていくのか、その取り組みについてお聞きしたい。

(教育長)

平清盛は、中学校歴史教科書では「武士としてはじめて政治の実権をにぎることに成功し、ついには太政大臣になりました。・・・日宋貿易にも力を入れ、瀬戸内海の航路をととのえ、大輪田泊を整備しました。」と記述されている。また、神戸まよめの達人運動においても、教材として「神戸の基礎を築いた平清盛」が作成され、すでに活用されている。

新しい学習指導要領では身近な地域の歴史を学習することで地域への関心を育てることが盛り込まれており、それを受けて、来年度より使用する中学校副読本「私たちの神戸」で「平清盛」の業績を取り上げた内容を記述する予定である。また、小学校教員の研究部でも、教員向けの資料を作成する予定である。先般市長が読売新聞社の社長と懇談した場でも、市長から新聞で取り上げていただくよう提案があり、さっそく、過日読売新聞の紙上で、平清盛と地域とのかかわりについての記事が掲載されたところである。それを兵庫区の小学校の授業で活用させていただいており、できれば読売新聞社の記者にも講義に来ていただけないかと依頼をしている。「平清盛」を学習するにあたっては、武士として初めて太政大臣となり福原京に遷都したこと、当時の貴族社会の慣習にとらわれず、日宋貿易に着目して西国の交通路や大輪田泊を整備し、今日の国際貿易港神戸の基礎を築いた先見性や実行力に気付かせることなどが留意点として上げられる。一方で「おごる平家は久しからず」と後世に言われるように人の生き方のいましめなどに触れることが大切であると考えており、そういったことを教育していきたい。さらに、「ドラマ館」「歴史館」に出来るだけ子どもたちに行っていただいて、学習活動に生かしていきたい。